

二十四節気は、半月ごとの季節の変化を示しています。さらに5〜6日ずつ分けて気象や動植物の変化を知らせるのが七十二候です。

平成29年
2017 2月

1 水 にわとりはじめてとやにつく 鶏始乳

2 木

3 金

4 土 はるかぜこおりをとく 東風解冻

5 日 文化園コンサート 第1回

6 月 休園日

7 火

8 水 うぐいすなく 黄鶯見睨

9 木

10 金

11 土

12 日 文化園コンサート 第2回

13 月 休園日 うおこおりをのぼる 魚上氷

14 火 彫刻館特設展示（～5月14日）

15 水

16 木

17 金

18 土 つちのしょううるかいこる 土脉潤起

19 日 文化園コンサート 第3回

20 月 休園日

21 火

22 水

23 木 かすみはじめてたなひく 霞始翳

24 金

25 土

26 日 文化園コンサート 第4回

27 月 休園日

28 火 そうもくめばさいする 草木萌動

大寒 だいかん

立春 りっしゅん

雨水 うすい



年代不明 『植物生態園入口』 写真提供：田畑貞壽



井の頭自然文化園
固有種といわれる『御殿山』
花は4月頃



日本原産
ヤブツバキ

園内の木々が落葉し花の少ないこの季節、本園（動物園）ツバキ園ではツバキの花が咲く姿をご覧いただけます。ツバキは日本原産の植物として古くから親しまれ江戸時代になると品種改良が進み、種々の品種が作り出され、日本から世界に広がった植物として愛されています。

井の頭自然文化園ツバキ園では約50種、200本ほどの『江戸椿』といわれる品種の一群が植えられています。11月から5月頃まで、長期間にわたりお楽しみいただけるのが特徴です。このツバキ園は昭和45～46年にかけて当時都立公園の苗木生産の拠点となっていた野方苗圃の閉鎖に当たり全品種を網羅する形で移植、造成され現在に至っています。

また、井の頭自然文化園開園当初は、ツバキ園から彫刻館までの広範囲が『植物生態園』として利用されていました。武蔵野雑木、自生する低木を中心に野草が林下に生えていたといわれています。



植物生態園入口があったと思われる場所